

ケアサポートえん利用者

田中さん(80代、一人暮らし)へのインタビュー

田中さんはケアサポートえんの訪問介護を7年以上利用されています。今までのこと、現在の思いや今後についてインタビューしました。

「生活援助があったから、一人暮らしを続けてこられた」

★2012年1月支援スタート 当時 76才 要介護2

入浴介助・掃除・調理で週2回の訪問

★訪問介護利用開始から今まで

夫他界後の遺品整理中に腰を痛めたため、他人の世話になるのは嫌だったが、心配する息子に言われて。2階に何としても上がりたい、良くなってヘルパーに頼らない生活をしたいと強く願って努力した。その後入浴はひとりのできるようになり、2階にも上がれるようになり、要介護1に。ヘルパーは週1回の掃除・ゴミ捨てるのみになった。しかし、体調不良・腰椎圧迫骨折等で何度も入院、一時は要介護5になり毎日ヘルパー対応となったときもあった。一生懸命努力して、要介護2にまで回復。身体の痛みと戦いながらヘルパーには最小限の生活援助をお願いしてきた。できない部分を手伝ってもらおうと精神的に安定し、その分できる事を頑張れる。少しのサポートで助かる事が沢山ある。

★ヘルパーの支援(生活援助)がなかったら…

無理をして良くない結果になるのではないか。できる事は踏ん張って頑張りながら生活をなり立たせているが、生活援助を受けるのが難しくなると、生きている価値がないと思ってしまい、具合が悪くなると思う。若い時から苦勞もして子供2人を育てあげたこの家この土地が好きで、思い入れもある。この生活を守っていくためには、だらしくしたくない。精神的にも身体的にも少しサポートしてもらおうことで元気になろうという気持ちになる。

《インタビューを終えて…》

P2で小島が触れているように、訪問介護の生活援助が危なくなっています。

自分の生活は自分で守っていきたいとは誰もが思うことですが、病気や障害、加齢によって、できなくなってしまうことがあります。田中さんは要介護2で始まり、体調を崩し要介護5になった時期にも迅速・適切に対応し、7年後の今は要介護2を維持できています。重症化の予防にも繋がっています。生活援助は誰でもできる仕事ではありません。専門職のサポートであることを理解してもらいたいと思います。

(ケアサポートえん／西本由美子)